

## 医療保護施設 総合病院 聖隷三方原病院

新型コロナウイルス感染症の流行主体となる変異株が $\alpha$ 株、 $\delta$ 株、 $\omicron$ 株と次々に置き換わり、なかなか終息の糸口が見つからない。ワクチン接種を3回行うことにより免疫力を引き上げて、感染リスクと重症化リスクを最小にすることが急がれる。また新たな変異株が出現することを考慮すれば、国内だけではなく地球規模での安定にまで至らなければ、この感染症が発生する前のような社会生活を取り戻す状況にはなりえない。院内に確保する専用病床は、現場での感染状況に合わせて柔軟に対応したい。

「医師の働き方改革」は、いよいよB・C水準を申請する病院の受付が始まる。診療部各医師と病院側との間で、業務と自己研鑽の区分を話し合い、ルール作りを行うことが重要である。そして当直体制については大幅な見直しと、効率的に医療資源を活用できる業務改善が急務である。おそらくこの改革により地域の診療体制が夜間を中心に大きく変化するものと考えられる。それに伴い2025年に向けた地域医療構想の話し合いも、従前の病床数の適正配置から、医療のみならず介護も含めた、急性期から在宅まで包括したシステムの再構築へと話題の中心が移ってゆくものと思われる。医師の負担軽減の一助となる看護の特定行為に関しては、定員数もカバーする領域も計画的に増やしてきた。2022年度からは外部からの受け入れも段階的に進めたい。

新型コロナウイルス感染症により医療機関への受診制限が2年に及び、利用者の考えにも変化が起きている。この状況が落ち着いた後も数字が元に戻るには、まだかなり時間を要するものと思われる。利用者が減少した状態がこのまま暫く続くなら、病院内の体制もそれに見合ったものに変えてゆく必要がある。ここ2年間は支援金により病院運営は安定していたが、これからは支援金のない状況でも以前のように安定経営が出来るよう、現場の医療状況に機敏に対応できる年としたい。

### 【理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

### 【経営方針】

この地域にしっかりと根ざし、住民に信頼される病院づくり

### 【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い医療の提供
  - (ア) 安全な医療の提供
    - ①医療安全管理の促進
    - ②感染管理体制の評価と更なる充実
  - (イ) 質の高い医療の提供
    - ①各部門の専門特化した医療体制の確立
    - ②専門性の高い看護師の更なる活用
  - (ウ) 新たな病院機能の提供

- ①手術室機能の更なる充実
  - ②病院機能の充実に向けた DX 推進 (※1)
  - ③各種センター設立に向けた検討
  - ④地域障がい者総合リハビリテーションセンターの活用
  - ⑤外来・画像診断部門の再構築
2. ディーセント・ワークの推進と人づくり文化の継承 (※2)
- (ア) 「医師の働き方改革」への対応
    - ①医師の勤務実態（日当直業務・業務と自己研鑽）の把握
    - ②勤務環境改善への取組み
    - ③タスク・シフト／シェアの推進
  - (イ) 医師・看護師・介護職の人材確保と定着
    - ①専門医・専攻医採用の強化
    - ②看護師・介護職・看護助手の安定した確保
    - ③新専門医制度への対応（基幹プログラムの追加）
    - ④臨床研究支援の検討と構築
  - (ウ) 職員教育の充実
    - ①キャリア形成への支援
    - ②指導者育成の推進
    - ③OJT の強力な推進
  - (エ) 多様な雇用形態の促進
    - ①障がい者雇用の維持
    - ②エルダー職の活用
    - ③両立支援が必要な人達の雇用 (※3)
3. 地域より求められる病院機能の整備
- (ア) 新型コロナウイルス感染症への対応
    - ①新型コロナウイルス感染症重点医療機関としての体制維持
    - ②集団免疫獲得に向けたワクチン接種の継続
    - ③地域と連携した感染対策の推進
    - ④発熱等特殊外来の活用
  - (イ) 各種認定施設としての機能の充実
    - ①高度救命救急センター
      - a 重症救急患者の受け入れ体制の充実
    - ②基幹型認知症疾患医療センター
      - a 他医療機関との連携システムの整備
      - b 地域包括支援センター、福祉・介護施設との連携
      - c 相談支援体制の充実
    - ③精神科病棟
      - a 精神科・身体合併症ユニットの体制充実
      - b 西部精神科救急指定病院の体制充実

- ④災害拠点病院
  - a 大規模災害に向けた地域連携
  - b 防災対策の強化（BCP 含む）
- ⑤地域がん診療連携拠点病院
  - a がんサポートセンターの継続的な運営
  - b がん地域連携クリニカルパスの活用推進
  - c がんゲノム医療連携の体制維持
- ⑥地域医療支援病院
  - a 病診・病病連携の強化
  - b 地域連携クリニカルパスの推進
- ⑦基幹型臨床研修病院
  - a 臨床研修医の確保
  - b 指導体制・プログラムの充実
- ⑧聖隷おおぞら療育センター
  - a 地域連携の強化
  - b 医療体制の確立
- (ウ) 利用者サービスの向上
  - ①地域のニーズに即した情報発信の強化
  - ②利便性向上を目指した ICT の活用（※4）
- (エ) 病院機能評価の認定更新
- (オ) 病院ボランティアの再開
- (カ) 医療保護施設としての活動
- (キ) 環境保全のための省エネ活動の継続
- 4. 地域完結型医療実現への取り組み
  - (ア) 地域医療構想への対応
    - ①病床・外来機能の検討
  - (イ) 地域包括ケアシステムの推進
    - ①入退院支援の質向上
    - ②福祉・介護施設との連携推進
    - ③アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の推進（※5）
- 5. 安定した経営基盤の確保
  - (ア) 診療報酬改定への対応
  - (イ) 施設基準の精度管理
  - (ウ) 職員の経営参画意識の向上
    - ①生産性向上への取組み強化
    - ②コストパフォーマンスの向上

- (※1) DX (デジタルトランスフォーメーション) : データとデジタル技術を活用して、サービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務や組織、プロセス、企業文化を変革し、競争上の優位性を確立すること
- (※2) デイセント・ワーク : SDGs の目標に記載されている「働きがいのある人間らしい仕事」のこと。権利が保障され、十分な収入を生み出し、適切な社会的保護が与えられる生産的な仕事とされている。ワークライフバランスに配慮した「人生と両立できる働きがいのある仕事」と定義する
- (※3) 両立支援 : 子育て、介護、病気の治療などの環境におかれている人への支援
- (※4) ICT : 通信技術を活用したコミュニケーション。情報処理だけではなくインターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称
- (※5) ACP : 患者本人と家族が医療者や介護提供者などと一緒に、現在の病気だけでなく、意思決定能力が低下する場合に備えて、あらかじめ終末期を含めた今後の医療や介護について話し合うこと

#### 【数値指標】

サービス活動収益	22,236 百万円	職 員 数	1,570 人
外来患者数	910 人	外 来 単 価	22,400 円
入院患者数	全体 590 人 <一般 532 人・精神 52 人・結核 6 人>		
入院単価	全体 70,300 円 <一般 74,700 円・精神 28,800 円・結核 39,000 円>		
病床利用率	全体 76.6% <一般 82.4 %・精神 50.0%・結核 30.0%>		
紹介率	80%	逆紹介率	100%

#### 《医療保護施設・無料低額事業》

当院は、医療を必要とする要保護者に対して医療の給付を行うことを目的とする施設であり、また、経済的理由により適切な医療を受けられない人に対し、無料または低額で診療をおこなう事業を展開している施設でもある。2022 年度も引き続きこのような方々に対して、積極的に手を差し延べ相談に乗り、必要な医療を受けやすい環境を整えていく。

#### 《助産施設 聖隷三方原病院併設助産所》

助産事業は、シングルマザー等への経済的、精神的援助という観点においても意義のある制度である。2022 年度も引き続き「みどりの通信」「院外ホームページ」等による地域への広報を図り、当制度対象者の利用しやすい環境を整えていく。

## 総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター

聖隷おおぞら療育センター〈医療型障害児入所施設／療養介護（重症心身障害児施設）・短期入所（ショートステイ）〉

2021年度同様に新型コロナウイルス等感染管理対策の徹底と迅速な対応を取れる管理体制を維持する。また、利用者へのワクチン等予防接種を推進すると共に治療薬普及や市中感染を勘案した外出や家族面会を検討する。利用者のADL、発達レベル、医療必要度等に応じた生活環境や安全性、施設機能の再評価を行い、全病棟ゾーンの再編成を実施する。

成人利用者の医療的ケアが多様化しており、小児科以外の診療体制の構築を検討する。

介護・看護職員の人材確保を継続する。職員の安全衛生や利用者の生活介護の観点からIT、ロボット等の導入を検討する。期間限定施設利用者への退所時支援として共同カンファレンス開催や入退院支援看護師の関わりを拡げていく。高齢化していく利用者には施設看取りが求められており、アドバンス・ケア・プランニングへの取組みを推進する。

ショートステイも利用者の体調確認や新型コロナウイルス等の地域感染情報の収集を厳にするなど、施設へのウイルス持ち込み防止対策を徹底する。安全で質の高いサービス提供に努めるとともに、かかりつけ医療機関との連携強化や情報共有を推進し、在宅の重症心身障害児者が安心して地域生活を継続できるように支援していく。

施設全体のBCPについて、訓練等を適時実施し、より高い精度になるよう見直しを行う。

あさひ〈生活介護〉

2021年度同様に新型コロナウイルス等感染対策の徹底と利用者の体調確認、地域感染情報の収集を厳にする。

看護・介護職員の育成と、高まる医療的ケアの提供に必要な適正人員配置に努める。

2021年度から開始した祝日営業は継続する。また、改善した経営効率を維持しながら地域における重症心身障害者の生活を支える役割を果たすため、積極的な事業運営を継続する。

児童発達支援センターひかりの子〈児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援〉

2021年度同様に新型コロナウイルス等感染対策の徹底と利用者の体調確認、地域感染情報の収集を厳にする。

看護・介護職員の育成と、利用児童の発達支援に必要な適正人員配置に努める。

地域拠点である児童発達支援センターとして、周辺各サービス事業所等との連携に努め、重症心身障害児や医療的ケア児のニーズや支援状況等の情報を的確に把握し、必要とされる役割を果たす。

### 【経営方針】

聖隷おおぞら療育センターは、施設利用者に対し、障害に即した医療を提供するとともに、個の尊厳を護り、質の高い生活を提供します。

【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い障害児者支援の実践
2. 全診療科協力のもとでの専門医療の提供
3. 職員教育の充実
4. 業務改革の更なる推進

【数値指標】

	入所	短期入所	ひかりの子	あさひ
サービス活動収益	1,903,500 千円	145,500 千円	57,000 千円	113,000 千円
職員数	193.0 人		8.5 人	16.4 人
入院患者・利用者数	130 人	13 人	—	—
入院単価（医療）	29,500 円	—	—	—
外来患者・利用者数	25 人	—	12 人	35 人
外来単価（医療）	4,500 円	—	—	—
単価（福祉）	9,470 円	30,700 円	15,850 円	12,500 円

# 聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2021 年度は新型コロナウイルス感染症が全国に拡大し緊急事態宣言が発出される中、ワクチン接種の促進と、さらなる感染防止対策の強化により利用者の安全確保に努めながら、超強化型の類型を維持し事業を継続することができた。医療依存度の高い方、終末期の方、緊急入所、緊急ショートステイの受入れなども継続的かつ積極的に取り組み、地域を担う老人保健施設として役割を果たしている。

2022 年度は、感染対策を継続しつつ、施設機能を活かした多様な利用者の受け入れを進め、「本当に困っている人を、困っているその時に」支援できる施設を目指す。理念に立ち返り、利用者寄り添った職員の育成と、利用者にとって居心地の良い環境づくりを進める。パーソン・センタード・ケアの実践を通して、認知症対応力の向上を図る。日々のケアの中から、「私の願い」を引き出し、ACP の形成につなげていく取り組みを継続する。福祉機器・ICT 機器の効果的活用により、安全で働きやすい職場づくりを進める。施設の資源・人材を活用した地域貢献活動を推進する。無料低額事業については、引き続き生活困窮者の経済的支援とともに、自立生活に向けて他の社会サービスと連携した援助を行う。

## 【施設理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

## 【経営方針】

地域とつながり その人らしい暮らしを支える

## 【事業・運営計画】

1. 地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進
  - (ア) 在宅復帰、在宅生活継続を常に意識したチームケアの提供
  - (イ) 施設機能を活かした多様な利用者の受け入れ
  - (ウ) 総合事業と連携した通所リハビリテーション
  - (エ) 行政、医療、施設、居宅等関係機関との連携強化
  
2. 安定的に事業継続できる体制の構築
  - (ア) BCP(事業継続計画)の強化
  - (イ) 新規利用者の獲得推進
  - (ウ) 聖隷三方原病院後方支援施設としての連携強化
  - (エ) 職員ひとりひとりの経営参画意識の向上

### 3. 安全で質の高いケアの提供

- (ア) 個々の利用者にあった医療・ケアの提供
- (イ) 利用者にとって居心地のよい環境づくり
- (ウ) 各部門の連携と協働
- (エ) ACP の活用と地域連携
- (オ) 感染対策とリスク分析

### 4. 次世代を担う人材育成と働く支援

- (ア) 理念と経営方針の浸透
- (イ) パーソン・センタード・ケアに基づく認知症への対応力向上
- (ウ) 高い医療ニーズに対応できる人材の育成
- (エ) 働きやすい職場労働環境づくりの推進
- (オ) 福祉機器・ICT 機器の効果的活用

### 5. 地域社会に貢献できる施設づくり

- (ア) 地域貢献活動の推進強化
- (イ) 無料低額事業（生活困窮者支援）の推進
- (ウ) 地域防災協定の推進
- (エ) ボランティア、学生実習、体験学習の受け入れ推進

#### 《無料又は低額介護老人保健施設利用事業》

当施設は、経済的理由により適切な介護を受けられない人に対し、無料または低額でケアを行う事業を展開している施設である。2022 年度も引き続きこのような方々に対して、積極的に手を差し延べ相談に乗り、必要な介護を受けやすい環境を整えていく。

#### 【数値指標】

	入所（短期入所含む）	通所リハビリテーション	訪問リハビリテーション
利用者数/月	125 人	28 人	2 件
	入所 116 人	介護保険 27 人	
	短期入所 9 人	介護予防 1 人	
単価/人	15,060 円	13,000 円	9,000 円
サービス活動収益：	800,000 千円		職員数 ： 92.9 人（常勤換算）



## 総合病院 聖隷浜松病院

引き続きコロナ禍、2021年度においても感染症の対応と病院運営の両立を目指した1年となった。夏期の第5波においては増大する重症者に対応すべく臨時的にHCU病床の一部をコロナ専用病床として運用、加えて一般病棟にコロナ患者受入病床を増床した。近隣の医療機関において患者受入れが難しい状況下では、外来・入院・救急を断らないことに努め、地域医療に貢献した。また、内視鏡室やカテーテル室など各ユニットおける稼動状況の見える化により、限りあるスペースを効率的に活用するための運用改善に取り組んだ。その結果、外来患者数、入院患者数ともに昨年を大きく上回り、地域からの信頼を得られたと考える。

新S棟開設まで残り1年、限りある資源をいかに活用できるかが鍵となる。2022年度は、「シフト」をテーマに掲げ、時間や曜日変更、運用や体制の見直し、さらに職員の思考を変えていく。また、デジタル問診票導入をはじめとするDXの推進、業務プロセスを再構築することで職員の負担軽減を図るなど、新たな課題に取り組んでいく。今後も高度急性期病院として利用者ニーズに応え、地域に貢献していく。

### 【病院使命】

人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します

### 【病院理念】

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ

### 【運営方針 2025】

私達は常に信頼される病院であり続けます

- 望まれる良質な医療を提供します
- 地域とのつながりを大切にします
- 良い医療人を育てます
- 働きやすい環境を作ります
- 健全な経営を継続します
- 災害・感染対策を強化します
- 環境に対する責任を果たします

### 【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

#### 1. 利用者満足の向上

(ア) 選ばれ続ける病院

①患者満足度調査結果（LINE3回）

この病院に満足している

肯定回答率 90%以上

その他 1項目

②接遇に関する患者満足度調査結果（LINE3回）

医師や職員は礼儀正しく親切で丁寧だった

肯定回答率 90%以上

その他 2項目

③新入院患者数

1,800人/月以上

- (イ) 職員負担軽減 (ジョブダイエット) ①職員満足度調査結果 (デスクネッツ年 3 回)  
 お互い協力し合って業務を遂行する  
 肯定回答率 75%以上  
 その他 5 項目
- ②定着率 (看護・事務・医技) 95%以上
- ③超勤時間  
 医師: 80 時間/月超 7 名以下  
 看護・事務・医療技術: 30 時間/月超 80 名以下

「価値提供行動」の視点 (病院機能・質の向上のために)

## 2. 地域に必要とされる高度・急性期医療の充実

- (ア) 断らない医療の徹底 ①救急車制限時間 (重症患者制限) 60 時間以下  
 ②紹介患者断り率 3%以下
- (イ) 地域連携の充実 ①転院患者の DPC II 期以内比率 33%以上  
 ②初診率 (放射線科・救急科除く) 7.2%以上  
 ③紹介初診患者数 総数 2,050 件/月以上  
 同一開設者 220 件/月以上
- (ウ) 入院機能の有効活用 ①HCU 算定率 (8 月算定開始) 70%以上  
 ②病棟別稼働率の差異  
 7:1 対象病棟 20%以下  
 全病棟 (C3 病床除く) 20%以下
- (エ) 外来機能の有効活用 ①内視鏡検査実施件数 780 件/月以上  
 ②外来化学療法室実施件数 640 件/月以上
- (オ) 手術室・カテーテル室の有効活用 ①8:30~19:00 の手術室稼働率 65%以上  
 ②19:00 以降終了の予定手術件数 40 件/月以下  
 ③9:00~17:00 のカテーテル室稼働率 60%以上
- (カ) がん診療の推進 ①サイバーナイフ件数 14 件/月以上  
 ②新規がん患者数 141 件/月以上
- (キ) DX の推進 ①ID-Link の閲覧回数 300 回/月以上  
 ②電子問診票導入診療科数 (年度末時点)  
 5 診療科以上

## 3. 医療の質と安全の保証

- (ア) 災害・感染・環境対策 ①ANPIC 返信率 2 時間以内 60%以上  
 ②手指衛生実施率  
 医師 50%以上・看護 80%以上・事務医技 65%以上  
 ③ CO2 排出削減  
 電気使用量前年同月比 3%削減  
 ペーパーレス会議の実施率 60%以上

- (イ) 安全な職場風土の醸成
- ①RRS（院内迅速対応システム）件数 15 件/月以上
  - ②医師の IA レポート数 50 件/月以上
  - ③患者誤認発生率 事象レベル 1 以上 0.27%以下
  - ④麻薬・ハイアラート薬品関連の IA 発生率  
事象レベル 2 以上 0.09%以下
  - ⑤転倒・転落による負傷発生率  
事象レベル 2 以上 0.75%以下

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

#### 4. 明日を担う人材育成と活用

- (ア) 共に育ち認め合う職場づくり
- ①e ラーニング必須研修受講率 100%
  - ②目標参画面談実施率  
医師 100% 看護・事務・医技 95%以上

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

#### 5. 目指す医療ができる安定した財務

- (ア) 年度予算の達成
- ①収益（サービス活動収益） 34,613 百万円以上
  - ②費用（サービス活動費用） 33,236 百万円以下
  - ③利益（税引前当期活動増減差額）  
1,000 百万円以上

#### 【数値指標】

サービス活動収益	34,613 百万円		職員数	2,182 名	
入院単価	91,300 円	入院患者数	690 名	病床利用率	92.2%
外来単価	22,000 円	外来患者数	1,600 名	平均在院日数	10.5 日
地域医療支援病院紹介率	65.0%		逆紹介率	70.0%	

#### 【地域における公益的な取組】

当院は、地域のがんを含む長期療養者に対し、ハローワークの担当者や社会保険労務士らとともに、行なう相談会を定期的に開催している。2022 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大状況をみながら、ハローワーク相談会を 12 回、社会保険労務士の相談会を 4 回開催する計画としている。また、がんに罹患し、就労継続に困難をかかえる療養者と事業主に対し、商工会議所と連携し、当院の患者支援センターが相談の窓口を担っており、2022 年度も継続していく。

#### 【助産施設 聖隷浜松病院併設助産所】

2021 年度は 2 月までに 5 名の方の利用があった。社会的経済的に困難を抱えた妊産婦の方々に利用していただくことができた。2022 年度も引続き受入体制の確保と充実を図っていく。

# 聖隷淡路病院

2022年度は総合診療科を新設し、日常的に頻度が高く幅広い領域の疾病と傷害について適切な初期対応と必要に応じた継続医療を全人的に提供することを目標として診療を行う。同科は多様な医療サービス（在宅医療・緩和ケア・高齢者ケアなど）を包括的かつ柔軟に提供し、場合によっては小さな外科手術や縫合もでき、複数の健康問題や介護保険にも対応していくことを目指す。

疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応できる病院機能を活かして、外来診療の更なる充実、医療機能別の病床管理による高稼働、保健事業の充実と拡大を図る。淡路島において地域から望まれる病院像を明確にし、地域医療の中で役割を果たしていく。

淡路市内の聖隷関係施設と密接に連携し、2022年度は人事交流を積極的に行う。聖隷各事業の質の高いサービスをシームレスに利用者に提供することで、地域における聖隷ブランドの付加価値を高めていきたい。

## 【施設理念】

『聖隷精神（隣人愛）を継承し、地域に根ざした医療・福祉に貢献する』

## 【経営方針】

1. 疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応し地域医療に貢献する
2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する
3. 地域との共存共栄を図りながら持続的な成長を目指す
4. 経営基盤を確立する

## 【事業・運営計画】

1. 疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応し地域医療に貢献する
  - (ア) 病床の安定稼働に向けて医療機能別の病床管理を行う
  - (イ) 地域包括ケア病床の機能を有効に活用する
  - (ウ) 質の高いリハビリにより、急性期から在宅まで切れ目のないサービス提供を行う
  - (エ) 各診療科の診療体制の充実とともに診療科の垣根を超えた相互協力体制を構築する
  - (オ) 保健事業を拡充し、地域住民の健康増進と地元企業の健康経営に貢献する
  - (カ) 総合診療科の新設により、断らない初療に努め、より複合的な疾患に対する診療能力を発揮し、家族・社会・行政とも連携した診療提供や、在宅医療・終末期医療等を包括的かつ総合的に診療を行う体制とする
2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する
  - (ア) 組織体制・委員会・会議の再構築によりガバナンスを強化する
  - (イ) 各職種の専門性向上と質の高いチーム医療を実践する
  - (ウ) 病院機能評価（日本医療機能評価機構）の結果を元にさらなる質改善に努める
  - (エ) 医療安全管理体制を強化する

- (オ) 院内感染対策を徹底する
- (カ) 医療倫理的な問題を審議し、その結果に基づいて医療提供を行う
- (キ) クリニカルパスを運用し、医療の標準化と質の向上を図る
- (ク) 初期臨床研修における地域医療研修と総合診療専門研修のプログラムを充実させる
- (ケ) 地域に根差した人材を確保し定着させる
- (コ) 各部門の役職者を育成する
- (サ) 利用者からの声を活かし、院内の環境改善に努める
- (シ) 職員が働きやすい労働条件・職場環境を整備する

### 3. 地域との共存共栄を図りながら持続的な成長を目指す

- (ア) 地域の医療機関との役割分担を明確にし、地域連携の推進により、入退院支援・在宅復帰支援を充実させる
- (イ) 淡路市内に開設する助産院への支援と淡路島内外の産後ケア事業を継続して行う
- (ウ) 淡路市内の聖隷関係施設と有機的に連携し、人事交流等を積極的に行う

### 4. 経営基盤の確立

- (ア) 医療資源を最大限に活用し、入院・外来・健診の患者増を図る
- (イ) 収益に見合った費用の削減に取り組む
- (ウ) 職員一人一人が経営参画意識を高め、経営目標を共有して改善を行う

### 5. その他

- (ア) 防災・防犯活動の推進とBCP（事業継続計画）の策定に向けた検討を行う
- (イ) 省エネ、資源循環、社会貢献活動に積極的に取り組む

### 6. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域住民に向けた健康啓発活動を継続的に実施する
- (イ) 骨粗鬆症治療の地域住民への啓発を目的としたNPO法人の設立に協力する

#### 【数値指標】

サービス活動収益	2,084,000 千円		職 員 数	195 名	
入院患者数	129 人/日	入院単価	31,500 円	病床稼働率	84.8%
外来患者数	128 人/日	外来単価	11,000 円	地域包括ケア病床稼働率	95.7%

#### 《無料又は低額診療事業》

無料又は低額診療事業を行う施設として広く生活困窮者の受け入れを行い、基準10%以上の実績を維持する

# 聖隷横浜病院

2021年度は、感染対策を継続する中、地域完結型医療を推進するケアミックス型の病院として、地域医療を支え、守る覚悟で取り組んだ。脳疾患の受け入れ強化のため脳卒中ケアユニットを3床増床したほか、各医療機関との連携をより強固にするため、紹介に対し即日返信の強化を行った。また、オンライン形式による市民公開講座の定期開催や横浜市と協力して15,000回以上のワクチン接種を行うなど、利用者に当院を知ってもらうための活動を積極的に行った。中でも、ワクチン接種に関しては横浜市内唯一の市民接種、職域接種が可能なワクチン接種施設として、行政との信頼関係を深めながら、接種の加速化に貢献することができた。これらの取り組みは職員の努力と団結によるものである。安心して利用できる病院であるという利用者の評価を得ることができた結果、これまで当院を利用したことがない多くの方々にも利用していただき、地域に根ざした病院としての基盤を構築することができた。

2022年度は、経営移譲後、20年目の節目の年度である。医療サービスを必要とする地域の多くの方々へ良質な医療を提供し続けるため、救急および外来診療体制の充実、各医療機関との連携の強化、広報活動の充実を図り、地域から愛されつづける病院づくりを職員と共に進めていく。

## 【病院理念】

私たちは、隣人愛の精神のもと、安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けます

## 【運営方針】

1. 急性期医療を中心に安全で良質な医療を提供します
2. 地域包括ケアシステムを推進し、在宅まで連続した医療を提供します
3. 職員が参画し、資源を最大限に活用した健全な経営を目指します
4. 病院理念を実践する人材を確保し、育成します
5. 全ての利用者にとって最適な環境づくりをします

【事業・運営計画】 ※は、中期事業計画 2021-2025 における区分との繋がりを表記

1. 安全で良質な医療の提供 事業、運営、財務
  - (ア) 医療安全管理体制および感染管理体制の強化 事業
    - ① 新型コロナワクチン 市民接種および職域接種の推進 事業
  - (イ) 救急診療体制の充実 事業
    - ① 救急医療の体制を充実し地域医療への貢献 救急車受け入れ年間 4,500 件 事業、財務
    - ② 「急性心疾患」、「脳血管疾患」、「外傷（整形外科）救急」の受け入れ体制の充実 事業
  - (ウ) 外来診療科体制の充実 事業、運営、財務
    - ① 午後の外来診療の増枠 事業、運営
    - ② 受付および問診体制の見直し 事業、運営
    - ③ 総合的な待ち時間対策の検討 事業、運営、財務
    - ④ 維持透析利用者の増加 事業、運営、財務

- ⑤ 専門看護師・認定看護師・特定行為看護師の活動の場の拡大 事業、運営
- ⑥ 循環バス利用者の促進および利便性向上に向けた検討 事業、運営
- (エ) ドック・健診事業の充実 事業、運営、組織、財務
  - ① 日曜乳がん・婦人科検診の拡大 事業
  - ② 健診予約枠の拡大 事業、運営、財務
  - ③ ドック・健診フロア拡大プロジェクトの立ち上げ 事業、運営、組織、財務
- 2. 地域包括ケアシステムの推進 事業、運営、組織、財務
  - (ア) 地域完結型医療の実践 事業、財務
    - ① 回復期リハビリテーション病棟の安定稼働 事業、財務
    - ② 緩和ケア病棟の安定稼働 事業、財務
    - ③ 地域包括ケア病棟の安定稼働 事業、財務
    - ④ 訪問看護における提供サービスの質向上 事業、運営、組織
  - (イ) 地域連携および広報活動の強化 事業、運営、組織
    - ① 診療所からの紹介件数：月間 850 件 事業、組織
    - ② 顔の見える広報活動（オンライン市民公開講座）の充実 事業、運営、組織
    - ③ 効果的な病院ホームページの検討 運営、組織
- 3. 資源を最大限に活用した健全な経営の実践 事業、運営、組織、財務
  - (ア) 人員配置に見合った収益確保（人件費率：年間平均 60%） 運営、財務
  - (イ) BCP（事業継続計画）に基づく防災訓練の実施 組織、運営、財務
  - (ウ) 手術室の効率的な稼働による件数増加：年間 1,800 件（手術室実績） 事業、運営、財務
  - (エ) 無料低額診療事業の基準 10%以上を堅持 事業
  - (オ) 病院設備および医療機器の管理体制の充実 事業、運営、財務
  - (カ) 自然環境に対する取り組み 事業、運営、財務
    - ① 環境に配慮した資源活用（フードロスの活用、薬品、物品の適正使用） 事業、運営、財務
    - ② 食材の地産地消の推進 事業、財務
    - ③ 井水の災害時提供の検討 運営、財務
- 4. 多様な人材確保と育成 事業、組織、運営
  - (ア) ディーセントワークの推進 事業、運営、組織
    - ① 障がい者雇用と定年後における雇用延長の推進 運営、組織
    - ② 働き続けたいと実感できる職場づくり 事業、組織、運営
    - ③ 職員の心と身体の健康管理の推進 事業、運営
  - (イ) 次世代リーダーの育成 事業、組織、運営
  - (ウ) 病院と訪問看護との人事交流の推進 事業、組織、運営
  - (エ) コンプライアンス教育の推進 組織、運営
  - (オ) 地域に求められる医療を推進し続ける職員の育成

5. 最適な環境づくりの推進 事業、組織、運営

(ア) 働き方改革関連法への対応 事業、運営

①働き方改革を見据えた診療体制の検討 事業、運営

②慣例に捉われない業務手順の見直しやスリム化 運営

③超過勤務の適正化と業務量削減のための検討 組織、運営、財務

(イ) 安全・感染対策に配慮した療養環境と労働環境の整備 事業、運営

(ウ) 将来の病院の在り方を検討（病床数、機能、病棟建築など） 事業、組織、運営

(エ) インフラ（電子カルテ、ネットワークなど）の整備の検討 事業、運営、財務

(オ) 職種の垣根を超えた協働による、自己および組織成長の推進 組織、運営

(カ) 共に育ち、互いを認め合う組織づくり

(キ) 聖隷 DX の推進

関連項目：1-（ウ）-②、1-（ウ）-③、1-（エ）-③、5-（ア）-②

【数値指標】

サービス活動収益	9,185,000 千円	職員数	698 名		
外来患者数	555 名	外来単価	16,900 円	救急車受け入れ件数	4,500 件
入院患者数	300 名	入院単価	56,400 円	病床稼働率	81.7%
訪問看護介護保険単価	10,300 円	訪問看護介護保険訪問数	10,665 件		
訪問看護医療保険単価	11,100 円	訪問看護医療保険訪問数	3,285 件		

<地域における公益的な取り組み>

- ・ 無料健康相談会の開催
- ・ ひとり親世帯への生活必需品の無償提供（職員家庭からの募集品）
- ・ 寄付型自動販売機の設置

<無料低額診療事業>

無料低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い、基準 10%以上の実績を維持する



# 聖隷佐倉市民病院

2022年度は「ひとり残らずファンにするっ！」を合い言葉に、地域医療への貢献、より強固な経営基盤の確立を目指す。

## 【施設理念】

キリスト教精神に基づく『隣人愛』に立ち、患者本位のより良質な医療を求めて最善を尽くします

## 【経営方針】

1. 隣人愛の精神の継承と実践
2. 安全かつ迅速で適切な医療・看護の提供
3. 地域医療との連携、地域住民参画の医療
4. 創造的な変革を通し、効率的で安定した健全経営
5. 働きがいのある職場づくり

## 【事業・運営計画】

1. 地域医療に貢献し、信頼され、選ばれる病院づくり
  - (ア) 地域のニーズ（医療・保健・福祉）に応えられる病院づくり
    - ①新型コロナウイルスなど変化する外部環境に対し、医療従事者としての使命を果たす
    - ②予防から診断・治療、そして在宅医療、終末医療など利用者の求める医療提供
    - ③救急の受入を強化し、地域住民の急病に対応する
  - (イ) 利用者に優しい病院づくり
    - ①待ち時間対策
    - ②利用者の立場に寄り添ったコミュニケーション力の強化
    - ③職員がキャッチした利用者の声を活かせる仕組みづくり
2. 安心・安全で質の高いサービス提供
  - (ア) 医療安全体制の整備
    - ①全職員にむけての医療安全・感染対策についての情報発信・共有
    - ②医療安全対策（PDCA サイクル活用）および感染状況に応じた防御策の実施
  - (イ) 利用者が安心できる、質の高い医療サービスの探求
    - ①医療機能評価認定への取り組み
    - ②利用者に対する十分な説明と患者意思を尊重した医療の提供
3. 地域連携、院内連携により、地域に寄り添った No.1 の病院を目指す
  - (ア) 地域社会との繋がりをパワーアップ！
    - ①地域ニーズの把握と連携体制強化（紹介・逆紹介の向上）
    - ②各部門と外部（他医療機関・行政・利用者・協力会社）との連携強化
  - (イ) 病院一丸となったチームワークづくり
    - ①TEAM SAKURA（多職種協働）を活かしたタスクシェアリングによるチーム医療の推進
    - ②職員間のコミュニケーション強化
  - (ウ) 院内外に向けた情報発信力の強化

- ①当院の強みを発揮できるよう当院のトリセツ（当院利用方法）の再発信
  - ②聖隷ブランドをPRするための院内イベント企画および地域イベントへの参加
  - ③顔がみえる院内広報活動
4. この病院で働きたい、働き続けたいと思える環境づくり
- (ア) 職員にとって働きやすい魅力ある病院づくり
    - ①働き方改革のさらなる推進
    - ②出産・育児・介護などのライフイベントに対応した組織づくり
    - ③健康で働き続けるための健康経営推進（病院の魅力の再発見と周知）
  - (イ) 職員の成長を支援する
    - ①専門的知識・技術向上（研究発表や学術発表）のためのサポート
    - ②医療人としての職員教育の充実
5. 変化する外部環境に対応した持続可能な経営基盤の構築
- (ア) 経営基盤の強化
    - ①新たな取り組みによる利用者確保
    - ②診療報酬改定に対する適切な対応
    - ③戦略的なコスト管理
    - ④経営参画に寄与できる職員の育成
  - (イ) 外部環境の変化にも対応できる基盤づくり
    - ①大規模災害、新興感染症に対するBCPの策定
    - ②SDGsやDX化（ICT活用）への積極的な取り組み
    - ③医療圏での当院の役割の再検討（疾患別、手術別シェア分析等）
6. 地域における公益的な取組
- (ア) 生活困窮者の自立促進に向けたケースワーカーによる相談支援
  - (イ) 地域住民の病気予防・健康寿命延伸につなげるための市民公開講座の実施

**【数値指標】**

サービス活動収益	10,890,000千円	職員数	805.4名
外来患者数	830名	外来単価	14,500円
入院患者数	310名	入院単価	53,900円
病床稼働率	82.2%	健診受診者数	200名
訪問看護 訪問件数	5,880件	ケアプラン 請求件数	696件

せいれい訪問看護ステーション佐倉 / せいれいケアプランセンター佐倉

2021年度は新型コロナウイルス感染症に対するBCPの検討を開始し在宅における感染症対策及び整備を重点的に行い利用者、職員の安全・安心に努めた。2022年度は、ケアプランセンターの増員に伴い、教育体制の整備及び事業の拡大を目指していく。また、引き続き新型コロナウイルス感染症の状況に注視しつつ患者支援センターとの連携強化、病院から在宅へのスムーズな移行を目指すとともに行政機関とも情報交換を密に行い地域包括ケアシステムに参画していく。

＜無料又は低額診療事業＞

無料又は低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い基準10%以上の実績を維持する。

# 浜松市リハビリテーション病院

2022年度は、聖隷福祉事業団の指定管理受託15年目を迎える。2021年度はコロナ禍において、この地域の医療を止めないよう感染状況に合わせた連携の要としてのリハビリテーション診療体制の維持に尽力した。引き続き感染対策を徹底するとともに、IT機器を有効に活用しつつ、2022年度も安心・安全なリハビリテーション医療を提供していく。

当院の特色である「えんげ、スポーツ、高次脳機能」の3つのセンター機能は年々充実し、全て浜松市医療奨励賞を受賞した。また臨床倫理について病院をあげて取り組んでおり、患者の自律を尊重した医療を展開している。これからはリハビリテーションにおけるリーディングホスピタルとして地域全体のリハビリテーションの質向上に寄与していく。また、先進機器を効率的に活用することでリハビリテーション効果を引き上げ、当院でしか受けられない医療を積極的に提供する。カンファレンスや患者説明の運用を見直し、利用者にとってタイムリーな情報提供の機会を充実させる。さらに、訪問診療の開始や就労・就学支援など退院後の生活適応期に必要なサービスを構築するとともに、地域との連携を具体的に進めていく。

「効果的・効率的なチーム医療体制の構築」を2022年度の継続目標とし、質的・量的に専門職が専門性を発揮できる環境を創っていく。これにより、職員の育成と満足度向上につなげ、職員一人一人が前向きに主体性を持って仕事ができることを目指し、「この病院で働いてよかった、ここで働きたい」と思ってもらえる環境をつくる。内部環境・運用面においても地域をリードできるリハビリテーション病院として存在感を持てるよう取り組んでいきたい。

## 【病院理念】

私達は、地域に根ざし、利用してくださる方々の尊厳と生活の質を尊重した、患者中心主義に基づく医療を提供します

## 【運営方針】

1. 多職種共働による、安全で科学的な根拠に基づく質の高い医療を提供する
2. 患者・家族のニーズに即し、個別性を重視した関わりを大切にする
3. 地域包括ケアを念頭に置き、幅広い連携体制を構築する
4. 健全な経営基盤を確立する
5. 職員の資質・技能向上に努め、人材確保とその育成に努力する

## 【回復期リハの基本姿勢】

地域と連携し“その人らしい”社会参加に向けて、個人の病態や生活環境に配慮したリハビリテーション支援を行う

## 【2022年度事業テーマ】

「リハビリテーションにおけるリーディングホスピタルを目指す！」

【2022年度 事業目標・年度重点施策】

1. 地域共生社会の実現に向けた連携の具体化
  - ① 訪問診療支援システムの構築
  - ② 地域のニーズに応じた入退院支援の充実
  - ③ 当院独自の社会復帰支援モデルの構築
  
2. 地域に期待される質の高いリハビリテーション医療の提供
  - ① 特色ある医療提供体制（えんげ、スポーツ、高次脳機能）の充実
  - ② 先進機器を活用したリハビリテーション医療の促進と評価
  - ③ 医療安全意識の高い風土の醸成
  - ④ この地域のリハビリテーション医療を止めない感染防御体制
  - ⑤ 倫理観を持った医療の展開
  
3. 効果的・効率的なチーム医療体制の確立
  - ① タイムリーなリハビリテーション医療の提供
  - ② エビデンスに基づいた予後予測による診療支援
  - ③ 利用者・職員に有益な情報共有ができる仕組み作り
  - ④ スタッフの実績が形となる環境整備
  
4. 安定した経営基盤の確立
  - ① 安定した病床稼働
  - ② リハビリ提供単位数の増加
  - ③ 介護保険事業の拡大
  - ④ 専門職が本来業務へ注力できる環境整備
  
5. 地域における公益的な取り組み
  - ① 健康寿命延伸に向けた取り組みの実施
  - ② 地域と連携した災害対策の強化
  - ③ 地域ニーズに沿った積極的な情報発信

【数値指標】

サービス活動収益	3,693 百万円		常勤職員数	439 名		
	外来	入院			介護	
		回復期	一般	合計	通所	訪問
患者・利用者数	134 人/日	174 人/日	40 人/日	214 人/日	719 人/月	328 人/月
単価	8,880 円	42,500 円	34,500 円	41,000 円	4,510 円	8,900 円
利用率		96.6 %	88.9 %	95.1%		

# 聖隷袋井市民病院

開設以来中東遠医療圏における後方支援病院としての役割を果たしつつ、この数年“退院後の生活の支援”にも注力し、地域包括ケアシステムの一翼を担うため発展し続けている。

2022年度は袋井市からの指定管理第2期最終年度であり、開設10年目となる。地域住民へのコロナワクチン接種を継続しながら、『地域NO.1』の回復期・慢性期医療を提供すべく進化を続ける。特にロボットを活用したリハビリテーションはこの地域で先駆的な取り組みとなり、本格的に訓練に応用していくことで身体機能向上や患者のモチベーション向上に寄与できると考えている。一般・回復期・療養病棟それぞれの特長を伸ばしていくこと、地域住民に認知されることで選ばれていくことのサイクルをまわしていきたい。コロナ禍では制限されることもあるが、これまで気づかなかったことを整えていくときでもある。医療の質の向上に注力し、期待される役割を果たし続けていきたい。

## 【施設理念】

『私たちは、患者と同じ視線を持ち、地域に信頼される病院を目指して歩み続けます』

## 【経営方針】

1. 地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供
2. 急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築
3. 在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供
4. 安定した経営基盤の確立
5. 働きがいのある職場づくりと人材育成

## 【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い医療サービスの提供
  - (ア) 多職種で取り組む質改善活動の推進
    - ① 職場や委員会等の質改善に向けた取り組みの可視化
    - ② 認知症患者の適切な医療評価や認知症ケアの向上
    - ③ 患者の利便性・満足度の向上
  - (イ) 多職種による安全な医療サービスの提供
    - ① 事故予防策の検討、実践
    - ② 院内感染管理体制の強化
  - (ウ) 地域における先駆的なリハビリテーション医療の充実
    - ① ロボットの活用を含めた特色あるリハビリテーションの提供
    - ② ボツリヌス療法や装具療法、嚥下入院の充実
    - ③ 高次脳機能障害への支援の充実

## 2. 地域包括ケアシステムの推進

(ア) 地域住民が自宅で最期まで自分らしく生活し続けるための支援体制づくり

- ① 退院後生活の支援（退院支援機能の向上、訪問診療の開始、訪問リハビリテーションの拡充、看護師による退院後生活のサポート）
- ② ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の概念を基にした意思決定の支援

## 3. 人材の確保・育成および働きやすい職場環境づくり

(ア) 人材の確保と育成

- ① 採用困難職種（医師・看護補助者）の採用強化
- ② 障がい者の雇用促進
- ③ 専門性向上の支援

(イ) 働きやすい職場環境づくり

- ① 業務効率化の推進と労働環境の整備
- ② 両立支援制度の普及啓発、活用

## 4. 経営基盤の安定化

(ア) 病床稼働の安定化

- ① 入退院調整の強化
- ② 情報発信力の強化

(イ) 災害対策の強化

- ① BCP で課題とした項目の改善および対策

## 5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 袋井市との協働と発展

- ① 地域における多職種協働（認知症初期集中支援活動、介護予防・健康増進活動、『こころのノート』普及）
- ② 地域に向けた啓発活動の実施

### 【数値指標】

サービス活動収益	1,667,150 千円	職員数	197 名
	患者数	単価	病床稼働率
外来	55 人／日	7,300 円	-
入院	131 人／日	28,300 円	87%
再掲（回復期）	43 人／日	36,700 円	86%
（一般）	42 人／日	26,200 円	84%
（療養）	46 人／日	22,300 円	92%

## 保健事業部

2021年度も新型コロナウイルス感染症の拡大による国の緊急事態宣言発出、外出自粛の状況等が継続し、上半期の受診控えに対する受診機会の回復に奔走する年度となった。保健事業部においては、市町の集団ワクチン接種及び企業・商工会議所等の職域ワクチン接種への積極的な支援を行い、地域住民の集団免疫の獲得と地域の経済活動の再開に貢献、社会福祉法人の使命を果たすことができた。今後も職員の感染対策の徹底を継続し、安心・安全に受診できる環境を維持する。

コロナ禍の継続が予測される2022年度は、経営方針である「利用者が安心して選び続ける保健事業部」をさらに推進する。「健診の入口から出口までの質を担保」することで「信頼・安心」を提供する「精度管理センター」の開設、SEIREI-CAREプログラム（遺伝性がん個別化検診）への取り組み等を皮切りに、2022年度は「新健診システムの稼働」により、新たな境地を切り開くスタートの年と位置付ける。健診システムの更新は、Web予約・Web問診（2022年10月開始予定）など利用者の利便性向上とともに、健診精度の向上にも貢献する。さらに、今まで人や紙で対応してきたものをシステムに置き換える効率的な運用により、法人の掲げる「聖隷DX」を具現化していく。

また、「巡回健診の平準化」への継続的取り組みや「健診コースごとの原価計算」の精度向上により、根拠ある数字をもとにした経営管理を促進する。「重症化予防」や各企業への「健康経営」の支援の取り組みにより、働く人の健康づくりや地域の健康寿命の延伸に寄与する。

「利用者に保健事業部（各センター）を選び続けていただく」こと、そのためには職員一人ひとりが、やりがいや誇りを持って業務に取り組むことが重要である。全職員が「利用者の目線」で経営に参画できる組織を目指し、以下の計画に取り組む。

### 【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

### 【経営方針】

1. 利用者が安心して選び続ける保健事業部
2. 職員一人ひとりが、やりがいや誇りを持って働く保健事業部

### 【事業・運営計画】

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供
  - (ア) 利用者の声を反映するしくみの構築（情報の収集・分析・発信）
  - (イ) 「重症化予防」の強化（保健指導・受診勧奨、地域専門医との連携強化）
  - (ウ) 利用者が納得できる結果説明の実施
  - (エ) 保健事業部の資源を活用した行政・企業等との協働による地域共生社会の実現
  - (オ) 利用者が主体的に関われる双方向コミュニケーションツールの検討
  - (カ) 安心・安全に受診できる環境の整備

2. 経営基盤強化のための取り組み
  - (ア) 利用者の獲得及びメニューの見直しによる収益増加
  - (イ) 契約内容見直し、巡回健診の平準化、コスト管理の徹底による費用削減
  - (ウ) ベンチマーク・原価計算等による採算性評価の精度向上
  - (エ) 聖隷グループ全体の資源の活用
3. 働き方改革への対応から人材の育成・確保
  - (ア) 自律した職員の育成
  - (イ) 人員配置の適正化の検証（業務効率化による費用削減の効果検証）
  - (ウ) 働きやすさ、働きがいづくりを実現する環境の整備
  - (エ) 保健事業部の専門性評価のしくみづくり
  - (オ) カスタマーセンター（苦情解決）設置の検討
4. 「健康経営」の実践と発信
  - (ア) 専門職による産業保健全般のコーディネート（医師・保健師・コンサル・測定士など）
  - (イ) テレワークの継続実施、ICTの活用等によるディーズセント・ワークの推進
5. データヘルス計画に向けて
  - (ア) 保険者・利用者の双方の目線に立ったデータヘルス改革の取り組み
  - (イ) マイナポータル対応とPLR（Personal Life Repository：個人生活録）の情報収集
  - (ウ) 個人ニーズに合った情報発信手法の検討（アプリの活用など）
  - (エ) データヘルス改革の拡大（生活習慣病への介入、労働衛生機関として集団へアプローチ）
6. 連携の強化
  - (ア) 事業部・施設・職場目標の共有による仕事の価値・働きがいの共有
  - (イ) 事業部内のさらなる情報共有・連携による、効率化と標準化の推進
  - (ウ) 事業団・グループ内の他事業部、他施設との連携を強化（「聖隷」の価値向上）
  - (エ) 他業種企業との共同事業の検討（企業退職者の継続的な健康管理、知財の発掘など）
7. 社会福祉法人の使命として地域共生社会の実現
  - (ア) 商工会議所会員事業所に向けた「健康経営」の支援
  - (イ) フレイル予防活動や健診弱者に対する支援を通じた地域貢献
  - (ウ) 聖隷クリストファー大学との連携（SGEプロジェクト等）と活動の拡大・水平展開

【数値指標】

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
65,307 名	201 名	528,306 名	11,506 名	93,096 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	職員数
51,756 名	40,940 名	789,192 名	8,793,000 千円	837 名



# 聖隷健康診断センター

2021年度も2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に苦慮した運営であった。その中で、人間ドック利用者の状況は2020年対比107.4%(11月時点)と改善傾向にあるが、施設内の「密」状態について、利用者から多数のご指摘をいただいた。受付(予約)時間遵守の運用、受付の婦人科フロアへの追加設置、女性のドック利用者の入館後直接誘導等の対策を実施した。また、婦人科フロアでは検査に先んじての問診実施、ニーズに合ったオプション検査の提案、より個人に合わせた人間ドック項目の提供ができた。今後は、ドック利用の全員に問診開始の運用とし、セミオーダー化を図る。

また、60歳以上の市民(人間ドック利用者)を対象に、筋力測定及び運動指導を追加する提案が浜松市ウェルネス推進事業に採用され、フレイル予防推進により地域貢献ができた。新型コロナウイルスワクチン施設内接種は、5月からのべ9,000回実施した。新型コロナウイルス感染症の対応とともに、「受診控え」をしている方々へ、地域と連携して健康診断の積極的な受診勧奨を行う。

2022年度は、新健診システムが稼働する。システムを効果的に活用しながら、利用者目線でのより良質なサービスの提供に向けて、職員一丸で取り組む。「滞在時間の短縮」は継続課題であり、人間ドックの“スピード化”を進める。自らの施設の「健康経営」に取り組み、適正な労働時間や労働環境への配慮を行う。

職員一人ひとりが「自分に余裕と自信をもって働くこと」を目指し、「やりがいを実感できる職場風土づくり」を継続して追求する。「地域で選ばれ続ける健診施設」として、接遇の強化はもちろんのこと、利用者ニーズに応え、相互に利益を感じられる「Win-Win」の関係を強化する。利用いただく一人ひとりが「自ら考える健康を実現」できるよう、最適な支援を行う。

## 【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

## 【経営方針】

1. 利用者が安心して選び続ける保健事業部
2. 職員一人ひとりがやりがいや誇りを持って働く保健事業部

## 【事業・運営計画】

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供
  - (ア) ホスピタリティ向上を目指し、全ての利用者が安心して受診できる環境の整備
  - (イ) 個人に対応したオーダーメイドサービスの提供
  - (ウ) 重症化予防対策の促進
  - (エ) 顧客満足度(CS)を向上させる
  - (オ) 新健診システムの安定稼働と効果的な活用
  - (カ) 「新内視鏡センター」の開設検討

2. 経営基盤強化のための取り組み
  - (ア) 既存サービスの拡充と見直し
  - (イ) 費用削減の推進
  - (ウ) 外部資源を活用した事業展開の推進
  - (エ) 新しい検査の情報収集と対応
  - (オ) 情報発信の強化
3. 人材（人財）の育成と確保
  - (ア) 新健診システムに対応した適正人員の配置と検証
  - (イ) 欠員等不足人員の確保
  - (ウ) 経験や階層に応じた人材育成の促進
  - (エ) 多様な人材がやりがいを持ち働ける職場風土づくり
4. 「健康経営」の実践
  - (ア) 労働時間の適正化（超過勤務の削減・有給休暇の取得等）
  - (イ) テレワーク等を活用した勤務体制の構築
  - (ウ) 職員の心身の健康の保持及び増進
  - (エ) 職場環境・職員スペースの環境整備
5. データヘルス計画に向けて
  - (ア) マイナポータルの運用促進
  - (イ) 契約団体への「健康経営」の支援（データ提供等）
6. 連携の強化
  - (ア) 事業団内における情報共有、横断的な業務連携による「強み」の発揮
  - (イ) 医療保険者等の顧客と連動した保健サービスの提案
7. 地域における公益的な活動
  - (ア) 地域住民・団体等を対象とした健康啓発活動・イベントの開催
  - (イ) 行政と提携した活動への参画及び実施
  - (ウ) 地域の教育機関（大学・高校等）との連携

【数値指標】

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
26,692 名	201 名	50,345 名	4,005 名	23,675 名
特殊健診	外 来	合 計	サービス活動収益	職員数
2,640 名	18,478 名	126,036 名	2,526,000 千円	196 名

# 聖隷予防検診センター

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により変化する社会ニーズを見据え、新たな事業モデルの構築に挑戦しながら地域の課題解決を目指した年度となった。

国の施策である新型コロナワクチン接種事業を積極的に受入するとともに、季節や時間等に起因する繁閑の平坦化に向けた「ピークシフト戦略」を引き続き継続、待ち時間を軽減しながらも、3年前と比較し午後の利用数をほぼ倍増させることが出来た。また、産学官連携も積極的に推進、聖隷クリストファー大学との「SGEプロジェクト」では、浜松市とともに女性に向けたがん検診啓発活動を実施、コロナ禍で多くのがん検診の受診率が低下した中において唯一子宮頸がん検診は受診率が向上、市担当者より本プロジェクトの活躍がその一因であるとの評価を頂くことが出来た。あわせて健康食監修の事業化やオンラインによる重症化予防事業の構築など、新たな生活様式に合わせた事業モデルの開発も進んでいる。

そのような多忙な中でも、常に笑顔で現場に立ち続け、利用者視点を忘れずに最善を尽くすため奮闘した全ての職員に対し、この場を借りて心からの感謝を伝えたい。

2022年度、これまで以上の安心・安全なサービスの提供を目的に、新たな健診システムを導入する。職員一丸となって運用構築を進めているが、その一方で、新型コロナウイルス感染症をきっかけとした健診やがん検診の受診控えが顕在化している。受診控えは健康上のリスクを高める可能性があり、定期的な受診が生活習慣病の予防やがんの早期発見・早期治療につながることを、今まで以上に啓発していく。

2022年の干支である壬寅には「新たな動きが胎動し大いに伸びる」という意味がある。今後も利用者を選び続けていただくため、サービスの本質である「人が提供する温かみや優しさ」は大切に守りながら、エビデンスや利用者ニーズに基づく適切なサービスの提供を行っていく。

あわせて、新健診システム稼働後も利用者が安心・安全に受診できる環境の整備とともに、新健診システムを活用した効果的・効率的な事業展開を推進する。2021年度に引き続き、職員がワクワクしながらいきいきと活躍できる環境を提供し、「職員も利用者も『また来たくなる』予検センター」を目指す。

## 【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

## 【事業・運営計画】

1. 全ての職員がいきいきと働くことができる職場づくりの実践（健「幸」経営）
  - (ア) 業務負荷軽減と効率化による生産性向上
  - (イ) ストレスチェックの組織集団分析に基づく事後措置の実施
  - (ウ) 定期健康診断後の再検査受診率の向上
  - (エ) 長時間労働の解消に向けた施策の実施
  - (オ) 職員の「ナイスプレー」の見える化

2. 良質な予防医療を永続的に提供するための安定した経営基盤の確立
- (ア) 事業・運営計画に合わせた適正な職員数の配置
  - (イ) 地域・企業健診センターとのプラスの融合
  - (ウ) エビデンスと利用者ニーズに基づく適切なサービスの提供
    - ① 人間ドック・生活習慣病予防健診を中心とした新規顧客獲得
    - ② 初回利用者のリピート率向上に向けた取り組み
    - ③ 新たなオプション検査の提供
  - (エ) 職員全員に向けた「経営指標の見える化」
  - (オ) 新健診システム稼働後も利用者が安心・安全に受診できる環境の整備
3. 利用者目線に立った質の高いサービスの提供
- (ア) 利用者満足度の向上（ワンランク上の「おもてなし」を目指して）
    - ① 利用者の滞在時間短縮
    - ② オンライン予約の環境整備
  - (イ) 利用者、企業、行政等、全てのステークホルダーの課題を解決
    - ① 重症化予防対策の推進
    - ② 聖隷関連施設との有機的連携
      - 病院・高齢者施設等の利用者情報を活用した「医保」「介保」連携の推進
- ※「医保」：「医≡病院」、「保＝保健事業部」  
 「介保」：「介≡高齢者施設」、「保＝保健事業部」
4. 次世代を担う人財の育成
- (ア) 入職1年目から中堅職員に向けた効果的なOJTの実践と評価
  - (イ) 中堅職員に向けたボトムアップの仕組みづくり
  - (ウ) 係長に向けたスキルアップ機会の提供
5. 地域における公益的な活動
- (ア) 地域住民・団体等を対象とした健康啓発活動の実施

【数値資料】

ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診
20,940名	33,800名	3,510名	16,610名	1,920名
外 来	合 計	サービス活動収益(地域含む)		職員数
12,310名	89,090名	4,139,000千円		160名

# 聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*

2021年度、聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*(以下サポートセンター)は、開設11年、聖隷静岡健診クリニックの充実を図り、静岡県中部圏内への巡回健診事業の展開を進めてきた。しかし、新規受注した地域がん検診が、コロナ禍による受診控えの影響で、予定数の半分にも満たない受診者数となるなど、地域巡回健診での落ち込み等が大きかった。新型コロナウイルスワクチン接種については、静岡市中山間地区住民に対しては、現地にて集団接種を実施、また施設内では近隣事業所の職域接種を実施するなど、地域・職域に貢献ができた。また、サポートセンターでは「健診機関併設婦人科外来」の強みを生かし、予防医療、プレコンセプションケア(注1)に特化した仕組みを地域に先駆けて構築し、12月より運用を開始した。

2022年度は、①巡回健診部門：1方向の追加・検診車2台の追加等による静岡県東部(富士・富士宮等)及び山梨県への進出・拡大、②聖隷静岡健診クリニック：近隣事業所や静岡市住民へのPR活動による閑散期をなくす取り組み、③サポートセンター：閑散期対策やリピート率アップ施策の実施・OP検査等追加による単価アップの取り組み等を図る。

サポートセンターは、さまざまな情報をいち早く収集、対応し、「選ばれ続ける総合保健施設」として、静岡地区で最高の質の保健・医療サービスを提供するため、“職員一人ひとりが自ら気づき考え行動する自立した組織”をさらに目指していく。

(注1：「妊娠する前からのケア」という概念。妊娠前の生殖年齢の女性に医学的・行動的・社会的な保健介入を行なうこと。病気の予防と健康管理を通じて女性の健康状態を改善していくことを目的とする。)

## 【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

## 【事業・運営計画】

### 1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供

#### (ア) 利用者ニーズに合ったサービスの提供

- ① 顧客満足度調査の継続と改善策の実施
- ② ニーズに合った専用デー(メンズ・夫婦・高齢者等)の開催検討
- ③ 混雑緩和を軸とした感染対策の徹底
- ④ 健康維持増進をサポートする取り組みの推進
- ⑤ IAレポートの分析の徹底及び迅速な改善

#### (イ) サービスの質を維持するための設備投資

- ① 医療機器設備の計画的な更新
- ② 新システム導入後の効率的で安定的な運用構築
- ③ 立地条件を強みとする聖隷静岡健診クリニックの環境整備

#### (ウ) ストレスチェックの検証・フォローまで含めた包括的なサービスの提案・提供を行う

#### (エ) 地域や企業等からの依頼の講演会・取材への積極的な協力体制の構築

## 2. 経営基盤強化と新たなサービスの創造

### (ア) 効率性を高めた巡回健診の実施

- ① 契約事業所の「原価計算」管理の実施と「平準化」の推進
- ② 巡回健診支援システム導入後の運用構築と費用の削減
- ③ 労働安全衛生法の検査項目を省略する企業に対するコンプライアンス遵守の案内

### (イ) より多くの利用者を受け入れるためのサービスの向上

- ① 各種健診・外来予約の利用率の向上
- ② 午後ドック導入の検証
- ③ 閑散期ドック受診への誘導
- ④ 魅力あるオプション検査の積極的導入

## 3. 人材育成・確保

### (ア) 係長や中堅職員の次世代リーダー育成

### (イ) 従業員満足度 (ES) の向上を目的とした施策の強化

### (ウ) 目標を明確化し一体となれる組織づくり

## 4. 健康経営の実現

### (ア) 職員一人ひとりが働きやすく、職員がやりがいや誇りを持って働ける職場づくり

### (イ) ビジョンの共有化

### (ウ) 職員超過勤務時間削減

### (エ) 衛生委員会を中心とした職員の健康意識の向上

- ① 職員ドックにおける結果説明受診率 100%とする
- ② 職場別ストレスチェック分析及び職場環境改善の提案と実施

## 5. データヘルス計画に向けて

### (ア) 医療保険者・利用者目線に立ったデータヘルス改革

### (イ) マイナポータル対応の体制整備 (パーソナル・ヘルス・レコード、特定健診、がん検診等)

## 6. 連携の可視化

### (ア) 静岡県立大学・厚生労働省等への研究協力の継続による地域公益活動の実績づくり

### (イ) 医師会・浜松医科大学・地元総合病院・行政との連携強化

### (ウ) 事業部内外及び関連法人施設との密接な連携 (渉外活動・人的協力等)

## 7. 地域共生社会への取組

### (ア) 地元とのつながり強化を目的とした自治会の地域のイベントへの継続参加

### (イ) 過疎地域における健康診断の実施継続・拡大

### 【数値指標】 聖隷健康サポートセンター *Shizuoka*

1日ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診
17,675名	115,917名	2,071名	19,203名	8,207名
外来	合計	-	サービス活動収益	職員数
10,152名	173,225名	-	2,028,000千円	177名

(医療事業収益内訳) 聖隷健康サポートセンター *Shizuoka* 1,225,430千円

巡回健診事業 462,910千円 ・ 聖隷静岡健診クリニック 291,660千円

## 地域・企業健診センター

2021年度は、「新型コロナ感染症への取り組み」「巡回健診の平準化」「接遇の強化」の3点を重点目標として、「職員が働きやすい環境」と「安心・安全で質の高い巡回健診の提供」に取り組んだ。「新型コロナ感染症への取り組み」では、地域における公益的な取り組みとして、近隣市町のワクチン集団接種（磐田市・袋井市・焼津市・島田市）及び職域接種を積極的に受託し、85,653人に対し接種を行うことが出来た。

また関連法人である聖隷沼津病院・聖隷富士病院と取り組んだ人的資源の有効活用施策や2022年度からの静岡地区への大口契約先移行計画の推進等、事業部内外施設との連携により、利用者サービスの質を高めながらも、職員が働きやすい組織づくりにつなげることが出来た。その他、静岡県および静岡社会健康医学大学院大学からの受託事業である「賀茂地区コホート研究」への参画や、島田市住民健診の継続受託の獲得など、経営基盤の安定に寄与できた。

2022年度は、職員が働きやすく、そして働きがいのある組織風土の醸成に向けて、職員が一丸となり取り組むことで、質の高いサービスの提供と経営基盤の安定の両立を図る。質の高いサービスの提供では、巡回健診の品質向上のために「質の保証」と「接遇の強化」に取り組んでいく。経営基盤安定に向けた取り組みでは、巡回健診の生産性向上のための「巡回健診の平準化」、「現有資源（配車・人・機材等）の有効活用」、健診契約ごとの「原価計算等の採算性評価」のさらなる推進と評価、新規契約団体に向けた円滑な健診実施、コロナ禍に伴う「受診控え」に対する未受診者対策（被扶養者・ファミリー健診含む）の拡大等を、戦略的に展開する。

法人の課題である「聖隷DX」推進については、4月より更新する「新健診システム」の安定稼働や新たに導入する巡回健診システムによって、「人的作業」から「安全で効率的なシステム」への置き換えを促進し、契約から健診実施後フォローまで、利用者の視点からも満足頂ける高品質なサービスの提供体制を構築する。

そして、2021年度に職員とともに定めたセンターのモットー『あしたの元気をおてつだい』を全員で共有し、職員の働きやすさ、働きがいの追求、「仲間を大切にする風土」づくり等に取り組む、働く仲間・利用者・事業所・地域とともに、「一人ひとりの健康（幸）」の実現のため、質の高い選ばれる巡回健診を目指していく。

### 【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

### 【事業・運営計画】

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供
  - (ア) 巡回健康診断の品質向上（質の保証・接遇の強化）
  - (イ) 新健診システムの安定稼働
  - (ウ) 契約内容の見直し・受診機会の提供（新規・既存契約）
  - (エ) 巡回健診支援システムの新規導入による精度の向上
  - (オ) 危機管理能力の向上（感染対策・医療事故・災害対策・ISMS等）

## 2. 経営基盤安定のための取り組み

### (ア) 戦略的事業拡大

- ① 住民健診の契約・継続（新規・既存契約）
- ② 行政が推進する事業への積極的関与
- ③ 未受診者対策・被扶養者健診・ファミリー健診の拡大

### (イ) 巡回健診の生産性向上

- ① 「巡回健診の平準化」、「現有資源の有効活用」の推進と評価
- ② 健診契約ごとの原価計算等による採算性評価の精度向上

### (ウ) 他施設とのプラスの融合

- ① 聖隷予防検診センター及び他施設との効率的な業務応援体制の構築

### (エ) 事業所ニーズに合わせた産業保健活動の推進

## 3. 次世代の育成と働き方改革

### (ア) 「仲間を大切にする風土」の醸成（職員間の礼節）

### (イ) 職員への継続的なモチベーション向上及びキャリア支援の継続

### (ウ) 専門職による渉外部門の教育（営業ツールの活用・評価）

### (エ) 健康経営『ディーセントワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進』

## 4. 地域における公益的な取り組み

### (ア) 各地域の健康フェスティバル等への参画

### 【数値指標】

一般健診	予防接種	婦人科健診	特殊健診	合計	職員数
314,644名	13,600名	33,608名	38,989名	400,841名	180名